

茶品

へきには非ず、素より初注再注など唱ふるは、尤當れりとすべし。前に述る如く泡淹沖の三ツも、わざにかけていふ時は、矢張古稱を用ひて烹點と唱ふる、是又前の例によりて拙きにはあらぬ也。

〔煎茶仕用集〕茶品彙

蘭茶 錫蘭茶と云、其香如蘭、渡來茶第一珍品、

松蘿 舶來のもの也、蘇州閩門といふ處より出ると云書付あり、甚希に來る、桃巖釋石舟所撰松蘿名を呼とみへたり、考終此書にそなはる可考、

武夷 此茶武夷の白茶とて、色は黒く、白きかびのやうなるものふきてあり、あまりよ

唐茶 常に多く舶來のもの、於州製之、

一ツ山 雁音 山吹 初緑 湖溪 越後 初山吹 春風 喜撰 政所 龍田 一ツ森 冬

梅 折鷹 朝日山 政所初葉

右拾六種、江州信樂より産す、日東煎茶此産第一とす、末茶は以宇治第一とす、

花橋 江州彦根より八里ばかり北、たて原村、源 莖茶 薄茶の莖也、室生 清見 服部

伊賀 河越 仙靈 靈玄 院法 皇ノ御勅名 本葉 薄葉 此兩種城州高雄山ノ産、日 草山

高泉寺 明石 此三品丹 足久保 産 州 吉野茶 和州 北山茶 和州 川俣茶 勢州 高野茶 紀州

産、以浪華水、蒸、甚、日向茶 精製者、無、完粟茶 數品、播 カナコシキ 豫州字 相樂茶 肥前 筑後

茶上品 輪達 澁州 葉室 城州 醜

〔清風瑣言上〕品解

煎品は、折鷹、白折鷹がね等、上製の餘材也と見ゆ、葉茶有莖茶有、葉くき相半する有、其葉は尖のみなれば、氣味共に薄し、喜撰は山岳の名、其山下なる朝日山の上に座せり、朝日は七圓なし、蒸は下